

2014年7月2日
東日本旅客鉄道株式会社

東京駅丸の内駅前広場整備について

JR東日本では、日本の首都東京の顔にふさわしい多彩な魅力と先進の機能をもった駅として、東京駅周辺地区の都市空間整備を進めています。

歴史と文化が感じられる丸の内地区の中心的存在となる東京駅丸の内駅舎(重要文化財指定)の保存・復原工事の完成(2012年10月)に引き続き、今回、その丸の内駅舎とともに本地区の象徴空間となる駅前広場整備計画がまとまりましたので、工事に着手します。

東京駅丸の内駅前広場は、交通結節機能の拡充を図るとともに、丸の内駅舎や行幸通りなど、周辺地区の都市空間と一体となって、首都東京の玄関口として格調と賑わいある新たな都市景観を創り出します。

[整備の考え方]

東京駅は、今年12月に開業100周年を迎えますが、次の100年を見据え、丸の内駅舎とともに永く親しまれる広場空間を創出します。

東京都と連携し、広場中央部に大きな歩行者空間「都市の広場(仮称)」、その南北に交通広場を配置した駅前広場を整備します。

「都市の広場(仮称)」は、緑陰豊かなケヤキの列植、行幸通りとデザイン的な統一を図った舗装や照明デザイン等により、丸の内駅舎とともに日本を代表する都市景観を創出し、東京駅周辺の都市観光の一役を担います。

交通広場(南部・北部)は、路線バスやタクシー等の交通結節機能を集約するとともに、四季を彩る植栽等による修景を行います。

駅前広場下において行う東京駅丸の内地下エリア整備工事と合わせて、工事を進めて参ります。

完成時期:2017年春(予定)

なお、南部の交通広場は、全体完成に先立ち2015年冬に使用開始する予定です。

[広場全体イメージパース]



[計画概要]

1 中央部歩行者空間「都市の広場（仮称）」

- 舗装計画 行幸通りとのデザインの一体性に配慮し、格調高い、白を基調とした御影石舗装とします。
- 植栽計画 皇居前広場へつながる軸線を意識し、樹形が美しく緑陰豊かなケヤキを列植します。
また、植栽への散水は、丸の内駅舎の排水を浄化処理した再利用水を用います。
- 照明計画 デザイン性の高い3灯式のポール照明柱をケヤキ植栽と平行に配置します。広場は、明るすぎない照明とし、ライトアップされる丸の内駅舎を際立たせます。
- その他 約 1,200 m²の芝生と水景(水深 5mm 程度、夏場のみ)により、夏場の路面温度上昇を抑制し、安らぎと清涼感のある広場にします。

[都市の広場:イメージパース]



[都市の広場:夜景イメージパース]



2 交通広場（南部・北部）

- 配置計画 現行広場内を大きく占めて通過する都道を広場外周に再整備(都市計画道路幹線街路補助 97・98 号線)し、都市の広場(仮称)の南北に、路線バス、タクシー等の交通結節機能を集約します。
- 植栽計画 日本のセントラルステーションに相応しく、日本の豊かな四季を彩るサクラやモミジなどの木々を植えます。
- 舗装計画 歩道部は、都市の広場と同じ御影石舗装を採用します。
- その他 既に切下げ・改修工事に着手している総武・横須賀線東京地下駅の換気塔をはじめ、各種施設物等についてはグレー調の仕上げとするなど、周辺の景観に配慮した修景を行います。

駅前広場を含む東京駅丸の内口周辺エリアのデザイン計画については、エリア全体を一体的にデザインするという観点から、景観・建築・ファニチャー・照明デザインなどの有識者、東京都、千代田区、大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会及び事業者等で構成する会議において、これまで議論を重ねてきました。今回の駅前広場のデザイン計画は、その会議でとりまとめたものです。

[参考:現状の駅前広場(新丸の内ビル7Fより撮影)]



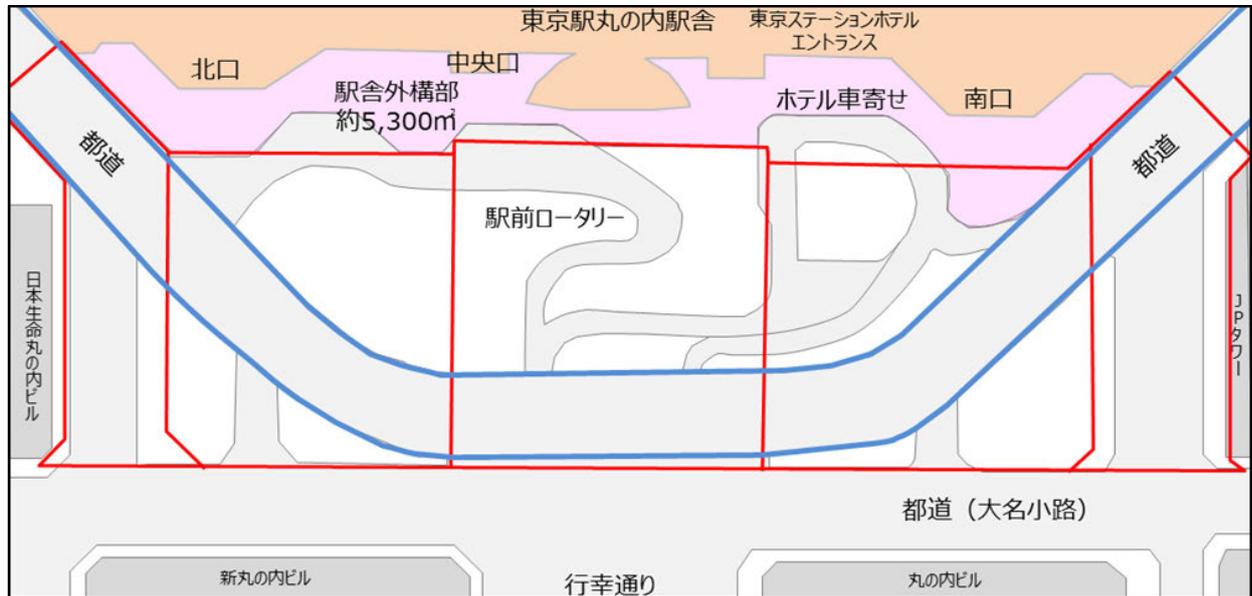
本資料にあるパース・図はイメージであり、実際とは異なる場合があります。

[別紙：駅前広場整備概要]

(凡例)

	都市計画ライン
	駅前通過都道
	駅前歩行者空間

整備前



整備後

